

のり子 奥村の  
読者ニュース

2015年7月5日 第179号  
——奥村のり子生活相談所——  
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11  
☎&FAX 073-427-7121  
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp



市駅前周辺の活性化について県の答弁紹介します  
「住民の意見を反映して」と要求

6月定例会では南海和歌山市駅前周辺活性化調整会議駅周辺活性化についても一般質問しました。  
地域では「駅がなくなるのではないが、紀ノ川の鉄橋も古くなつたし」など心配の声がよく聞かれました。5月18日南海電鉄と市長が記者会見を開き市駅活性化構想が発表され地元のみなさんは大変喜んでいました。  
私はこれまでの経緯と構想の内容、県の関わりについて質し、県土整備部長は、昨年6月より市・南海電鉄・県の3者による南海駅前広場の再整備、観光による利便性の向上等を市街地再開発事業として実施するとともに、駅前広場において、バスロータリーを整備するなどによる、交通結節点機能の強化をはかるものであり、南海電鉄は第1期工事として、オフィス棟や駅施設について、



和歌山市駅前周辺活性化調整会議において、都市の賑わいの観点から図書館、市民会館といった周辺公共施設の集約・再編、また、交通結節点機能の強化の観点から、バス乗降場の集約など駅前広場の再整備などを県から提案し検討を進めてきました。構想の内容は駅舎を含む現在の南海和歌山ビルの立て替えとあわせ、更新時期を迎えている市民図書館を市駅に移転させ、文化・交流拠点を創出することによる賑わい空間の整備、観光案内所・自転車駐輪場の再整備による利便性の向上等を市街地再開発事業として実施するとともに、駅前広場において、バスロータリーを整備するなどによる、交通結節点機能の強化をはかるものであり、南海電鉄は第1期工事として、オフィス棟や駅施設について、

戦時回帰の自民暴言オンパレード  
すさまじい言論弾圧、沖縄侮辱

戦争法案(安保法制)成立へ安倍首相のお友達が集まって開いた「勉強会」は暴言のオンパレードの様相でした。議員らが「マスコミを懲らしめるために広告料をなくせ。経団連に働きかけて」「沖縄のどこかの島を中国に取られれば沖縄県民も目をさます」とか煽り、安倍首相と仲良しで有名な百田尚樹氏(作家)が講師で好き勝手な暴言です。「沖縄の2(地方)紙をつぶせ」「普天間基地は田んぼのなかにあった。基地のまわりに行けば商売になると住みはじめた」などと、銃剣とブルドーザーで米軍に土地を奪われた歴史をさかさまに描き沖縄住民を侮辱する暴言。安保法制への支持が広がらないのはマスコミの責任だと言論弾圧する自民党議員に混じって安倍首相の側近も参加していたが、暴言を止めもせず放置したと言う。

若手議員らは首相に「いい顔」しようと本音を吐露したが、これがものすごい批判を浴び国民の賢明さと彼らの不勉強さを暴露。戦争法案は日本を「戦争する国にする」というネライが広く国民に知られつつあり、ここにこそ支持が広がらない根本があります。そんなことさえわからない自民党議員と右翼内閣です。報道の自由、言論の自由も奪う恐ろしい戦時回帰の自民党。庶民の生活は締め上げ、ひたすら戦争めざす自民党にはもう見切りをつけようではありませんか。(編集室)

のり子の週刊日誌(主なもの)

- 7月3日 市駅前/吉宗像前宣伝
- 4日 河西後援会機遊び
- 5日 平和大好きウォーク&マラソン大会
- 6日 国賠同盟総会 党会議
- 7日 地域訪問(貴志地区)
- 8日 市議会閉会 人権小子高齢化問題等特別委員会調査
- 9日 無料生活相談、和歌山大空襲を語り継ぐ文化のこぼい

曲がり道の人生

来年夏の参議院選挙で日本共産党の比例代表候補として和歌山の皆さんにお世話になります。よろしくお願いたします。  
私が歩んできたのは、ひとすじの道どころか、曲がり道ばかりでした。それでも今日があるのはたくさんの方に助けて頂いたおかげです。

京都の中学生時代、問題児だった私に毎日きつねうどんを食べさせながら説教してくれた植山忠次郎先生。先生のおかげで立ち直り、高校にも進学することができました。

21歳のとき、神戸の大学を中退し、演劇の脚本家になるために上京しました。才能はあったのですが、時代に受け入れられず、失意のどん底にあってたとき、アルバイト先の食堂のおばちゃんに強引にしんぶん赤旗の日刊紙の購

しんぶん赤旗購読で目からウロコ落ちて

読を勧められました。読んでみると目のウロコがどんどん落ちていき、自らすんで日本共産党に入りました。それが人生の転機になりました。おばちゃん、強引に赤旗を勧められてありがとうございます。



6月14日、戦争法案についての大門さんの講演は、大好評でした。

議員 大門みきし



国会議員になって、自分の活動スタイルに自信がもてない時期がありました。質問も活動も自由にやらせてもらっていましたが、我流に陥っていないか、孤立感もあったのです。そんなとき、励まして下さったのが市田忠義書記局長(当時)でした。みんなちがって、みんないいー市田さんの言葉でどれだけ気持ち楽になったことか。自分のスタイルで行こうと決めました。その市田さんのあとをつぎ、近畿で活動ができることを本当に誇りに思っています。



県議会終了日、3人揃って戦争法案反対の宣伝しました。